



三井店奉公人の京都真如堂総墓

三井店奉公人の京都真如堂総墓（京都市左京区鈴声山真正極楽寺所在）

江戸時代中期以降三井家の経営した店々は三都・松坂に及び、その奉公人も最も多い時期には千人を越した。

奉公人は雇入後十数年間勤めて円満退職し、自己の営業を創始するか自家に戻るかする者が殆どであった。しかしすべてがそれを達した訳ではなく、途中で挫折する者も多かった。勤仕中死亡者はその最も同情に値する例であろう。それらに対して各店では独自に菩提寺で葬を行い、各個人別に墓石を建てたが、それとは別に一本の石塔に多数の戒名を彫入れた総墓を建立した。この総墓は東京・大阪・京都に残されている。写真に掲げた京都真如堂のものは、他の二つが夫々江戸・大坂の店々の奉公人に限られるのに対し、三都・松坂の三井全店の奉公人が含まれる。正面大石塔と左右の小石塔七本の総墓は、三井家旧墓の南端に接しそれと相対し東向に並んでいる。大石塔裏面には刻文があり、それを下に掲げた。これら総墓の詳細は本号史料紹介を参照されたい。

宿坊東陽院

就鈴声山真正極楽寺建

群靈碑陰記

茫茫三界生死交謝捨身受身無由解脱嘗聞道貴  
清通義非壅結慮吾從厲其在京兆暨及諸州命過  
後先者多矣各就其地別設墓表時修冥福猶恐福  
輕業重未盡濟幽途之禍於是特發虔心借衆鋪闕  
群靈之名刻茲貞石以建于斯山吾儕每詣永為供  
養而復每歲雲集僧伽就本寺中聊伸薦羞之儀翹  
動施食方法伏願累世先亡咸沾利樂多生滯魄俱  
獲超昇輒課蕪旨式告吾党  
享保六年竜集辛丑七月六日

三井氏謹記